

令和7年度 入学試験（一般 第3回）問題

国 語

受験番号		氏 名	
------	--	-----	--

○ 指示があるまで開かないこと。
令和7年1月25日(土) 9時00分 ～ 9時45分

【注意事項】

- 1 試験問題の数は24問です。
- 2 問題用紙及び解答用紙に受験番号・氏名を必ず記入してください。
解答用紙はマークシートと記述解答用紙の2枚あります。下記の記入例をみて記入してください。
- 3 解答は、指示に従いすべて解答用紙にマークしてください。問題用紙に記載しても無効です。
なお、マークシートの解答用紙には解答欄が50問までありますが、24問以降にマークしても無効です。
- 4 試験問題は四－【21】以外すべて5つの選択肢があります。質問に適した選択肢を選び、その番号を解答用紙にマークしてください。2つ以上マークした場合は無効となります。
なお、試験問題の四－【21】については、記述解答用紙の問24に記入してください。

【解答用紙マークシート記入例】

フリガナ	セイ トウ ハナ コ	年	月	日	国語
氏 名	聖 灯 花 子	7	1	25	

〔受験番号記入例〕

番 号									
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
3	3	3	3	3	3	3	3	3	3
4	4	4	4	4	4	4	4	4	4
5	5	5	5	5	5	5	5	5	5
6	6	6	6	6	6	6	6	6	6
7	7	7	7	7	7	7	7	7	7
8	8	8	8	8	8	8	8	8	8
9	9	9	9	9	9	9	9	9	9

問	解 答 欄
1	① ② ③ ④ ⑤
2	① ② ③ ④ ⑤
3	① ② ③ ④ ⑤

問	解 答 欄
11	① ② ③ ④ ⑤
12	① ② ③ ④ ⑤
13	① ② ③ ④ ⑤

マーク例	
良い例	悪い例
●	☑ ○ ●

※番号欄には、右づめで受験番号を記入し、該当部分の数字をマークしてください。

【記述解答用紙記入例】

受験番号
32001
氏 名
聖 灯 花 子
評 定

令和七年度 入学試験（一般 第三回）問題（国語）

一次の文章を読んで、後の【1】～【7】に答えなさい。

二月に入ると、今年の歩みがすでに進行している、という実感になる。正月の弾んだ気分が落ちついて、じつくりと日常に引据えられるからであろう。華やいだものはこの月にはなくて、否応なしに自分に立ちむかわなければならぬ。だから、時の歩みが意識されるのであろう。それに二月は一年のうちで特に短い月でもある。二月は短いというのを私などは妙にはつきりと心におくだけけれど、わずか二日か、三日少いだけとしても、一月三十日、三十一日の月毎の【*】の中では、やはり特別なだろう。月の中で二、三日短い、ということは、他の二、三日についての感じ方とはちがうものらしい。次はもう春の季節の三月、とおもうとあわただしい気もして、だから二月という月は狭間の時はざまという感じでもある。しかし狭間だけど、この短い月はきびしい、という感じにもなるのは、いちばん寒さの強いときだからでもあるうか。落ちつき、というのは厳しさを合せ持っているものなのかもしれない。

私にとっての二月は、自分のことで言えば長男の生れた月なのである。長男が生れたとき、二月生れは性格が強い、と誰かに聞いて、そう云えば、あの人も二月のお生れだ、と尊敬する知人を引合いにして、二月生れの幸に【(a)】、とわが子におもったことがある。生れた子供に対して親の、幸多かれ、と願う気持は、生れ月さえ頼みにする。二月生れは性格が強い、というのは、二月という月のきびしさに結びつくようにおもわれた。そういう気持があったから、私は二月が嫌いではない。特に好き、とも云えないけれど。というのは、私には二月で忘れられないことがあるからだとおもう。それは私の若いときプロレタリア文学運動を共にした作家の小林多喜二が、一九三三年二月二十日に、官憲に逮捕され、その夜、拷問によって殺された、ということなのだ。二月といえば、この小林多喜二の死が、長男の生れ月といっしょに私に浮んでくるものになった。これはもうどうしようもない。小林多喜二は初期に志賀直哉の作品に学び、人道主義の思想からプロレタリア文学に進んだ作家で、その優れた作品は今も多くの人に読まれている。明るい性格の、信じたことに積極的な人であった。多喜二の死の前後は【(b)】覚えてるが、それは当時書いたから、もうくり返さない。

この数年、二月になるとどこかへ行きたくなる。雪を見たい、とおもうのだが、故郷が長崎で、雪というものを暮しの中では知らない私の、勝手な憧れらしい。戦前と戦後の二回、長い仕事を持って雪の深い所に長逗留とまりゅうしたことはある。二回目の戦後のときは岩手県花巻の先の志戸平という山間の温泉宿にいた。自炊のできる部屋もある大きな旅館が一軒だけというところであった。その志戸平へもう一度行きたい、とおもいつづけていて、ようやく二人の女友達と連れ立って出かけたのは、六年前の二月であった。先に鳴子に一泊、翌日、志戸平へ向う途中で平泉の中尊寺に詣でた。鳴子では雪は降らずに小雨であったが、中尊寺では積雪の中の金色堂を拝観して心満たされ、それ以来、私の中尊寺のイメージは、雪景色の、しんと静まった木立に囲まれたものに【**】した。がこの日、空は晴れていて、平泉から志戸平へ向う道はおだやかな陽差しがうらうらとして、春の気配さえ感じさせた。旅行者は勝手なもので、雪国へ来たつもりなのに、この陽差しの色は、などと不満げにしゃべったりした。タクシーの運転手さんも、今年の二月は雪がない、と云う。

志戸平も晴れていた。私の長逗留したときから十七年ぶりの志戸平は、この期間のどこも変わったようにやはり新しくなって、立派な広い道ができ、大きなホテルが建ち、旅館の数も増えていた。私の泊った旅館も建ち変っている。が、その志戸平温泉旅館の主人は、十七年前に私の泊ったのを覚えていてくれた。あのときの逗留が印象深く、私がそれを書いたから、宿の主人もそれで覚えていてくれたらしい。逗留していた間の私は宿の主人とは話をしたこともなかった。が、あのとき帳場にいた青年が、文学好きであつたらしく、私が帰京してから一、二度文通をした。あの青年はどうしたろう。十七年ぶりの私は、覚えていてくれた主人に彼の消息をたずねた。と、返事はおもいがけなかった。

「あれは先年、病気で亡くなりました。私の甥でした……」

とのこと。若い人が亡くなった、と聞くのは、何か胸に【(c)】。

今年は雪が少い、とのことで、部屋の前の溪流を挟んだ向いの岩山には陽が光っている。が、その陽差しの中に、絶えず粉雪がちらちら舞っている。風に吹かれて舞う雪片なのであろう。雪国の人はこれを風のこ、という。それだけが雪国へ来たおもいにさせるが、それを見ながら私は、あのときの青年がもう亡くなった、というのを、まだ解せないように追いつづけた。この雪国の宿が、私の記憶の中で写真のようになっていてから、あのときいた人も健在と決めていたせいらしい。無口だが、優しい青年であった。雪を見にきて、雪には逢わず、若い人の死を聞くめぐり合せになって、それが私の思いを (d)。

だから、帰京して二、三日あとに、私の歩いた辺りが大雪になったというニュースを聞いて、その降り積む雪を想像しながらも、それに重ねて浮ぶのは若い人の死であった。十七年前に逢ったままの印象で、私には彼は若い人としかならない。十七年位は私のこの感じ方に抵触しなかった。それは私の年齢になった者の感じ方かもしれない。おとし位とおもうこの二月の旅も、すでに六年経っている。

今年の二月も、またたくまに過ぎてゆくことだろう。

(佐多稲子『粉雪の舞う宿』)

【1】 二重傍線部「幸に」に続く(a)として正しいものを、①～⑤から選び、その番号をマークしなさい。

【解答欄は問 1】

- ① あやかれ ② たよれ ③ したがえ ④ すがれ ⑤ つらなれ

【2】 二重傍線部「覚えて」の前に置く(b)として正しいものを、①～⑤から選び、その番号をマークしなさい。

【解答欄は問 2】

- ① くっきりと ② おどおどと ③ さむざむと ④ まざまざと ⑤ はっきりと

【3】 二重傍線部「胸に」に続く(c)として正しいものを、①～⑤から選び、その番号をマークしなさい。

【解答欄は問 3】

- ① こもった ② つまった ③ ひびいた ④ のこった ⑤ こたえた

【4】 二重傍線部「思いを」に続く(d)として正しいものを、①～⑤から選び、その番号をマークしなさい。

【解答欄は問 4】

- ① 固めた ② 強めた ③ 深めた ④ 極めた ⑤ 高めた

【5】 空欄*と**に該当する語を、それぞれ①～⑤から選び、その番号をマークしなさい。【解答欄は問 5 6】

- ⑤ * ① ながれ ② きまり ③ ならい ④ おきて ⑤ さだめ
⑥ ** ① 落着 ② 到着 ③ 帰着 ④ 定着 ⑤ 決着

【6】 この文章の作者・佐多稲子の作品として正しくないものを、①～⑤から選び、その番号をマークしなさい。

【解答欄は問 7】

- ⑦ ① 『キャラメル工場から』 ② 『女の宿』 ③ 『時に佇^たつ』 ④ 『夏の栞^{しお}』 ⑤ 『二十四の瞳』

【7】 筆者は波線部で、読者に何を伝えたかったのか。筆者の思いとしてふさわしいものを、①～⑤から選び、その番号をマークしなさい。【解答欄は問8】

- 8
- ① それでなくても大切な人のことが思い出される二月だが、今年は一層その感慨が強い、という思い。
② 歳を重ねたうえ、今年は予想だにできなかった人の死が加わり、重い日々が過ぎてゆく、という思い。
③ 人の一生がこれほど唐突に終わってしまうという現実を、改めて目の当たりにした、という思い。
④ 二、三日少ないだけなのにあっという間に過ぎてしまう二月の、何という侘しさか、という思い。
⑤ 気になっていた若者のあまりに早い死の知らせに接し、人の世の儚さを改めて痛感した、という思い。

二次の【8】～【12】の文章中、カタカナで記された言葉の漢字として正しいものを、それぞれ①～⑤から選び、その番号をマークしなさい。

【8】 「今朝の空は、まさに台風イッカだ。」【解答欄は問9】

- 9 ① 一荷 ② 一過 ③ 一化 ④ 一家 ⑤ 一架

【9】 「駅前の放置自転車は、夕方までに全てテッキョされた。」【解答欄は問10】

- 10 ① 撤去 ② 徹扱 ③ 徹去 ④ 撤許 ⑤ 轍去

【10】 「検査の結果、母は長期入院をヨギなくされた。」【解答欄は問11】

- 11 ① 余技 ② 代儀 ③ 余儀 ④ 予犧 ⑤ 余疑

【11】 「彼の発言は、しょせん、社交ジレイにすぎない。」【解答欄は問12】

- 12 ① 自令 ② 事例 ③ 辞礼 ④ 自励 ⑤ 辞令

【12】 「結局、彼女にはこの問題の全体像がハアクできていない。」【解答欄は問13】

- 13 ① 把悪 ② 破握 ③ 派渥 ④ 把握 ⑤ 破渥

三 次 の 【13】 ～ 【17】 の 作 品 に 登 場 す る 人 物 と し て 正 し い も の を 、 そ れ ぞ れ ① ～ ⑤ か ら 選 び 、 そ の 番 号 を マー ク し な さ い 。

【13】 『ゼロの焦点』（松本清張）【解答欄は問14】

- ① 金井湛
- ② 鶴原禎子
- ③ 富岡兼吾
- ④ 和賀英良
- ⑤ 瀬川丑松

【14】 『嵐が丘』（エミリー・ブロンテ）【解答欄は問15】

- ① スクルージ
- ② フライダー
- ③ ヒースクリフ
- ④ レミ
- ⑤ ジム

【15】 『夏の終り』（瀬戸内寂聴）【解答欄は問16】

- ① 相沢知子
- ② 布引けい
- ③ 幸田ゆき子
- ④ 杉戸八重
- ⑤ 辻口陽子

【16】 『ごんぎつね』（新美南吉）【解答欄は問17】

- ① 吾一
- ② 鮎太
- ③ 民子
- ④ 仙吉
- ⑤ 兵十

【17】 『あしながおじさん』（ジーン・ウェブスター）【解答欄は問18】

- ① ピッピ
- ② ジェーン
- ③ セーラ
- ④ ジュディ
- ⑤ アン

四 次の文章を読んで、後の【18】～【21】に答えなさい。

私の若い友人のひとりからきた手紙の一節に、つぎのような言葉があった。

「私ももうじき三十五になります（中略）またもや人生の曲り角にきた感を強くし、いささか悩んでおります」私はこの若い友人への返事に、つぎのような言葉を書いた。

「きみは『もうじき三十五になる』由、ぼくの方は『もうじき六十五』になります。そうして、きみとおなじくぼくも『またもや人生の曲り角にきた感を強く』しています……」

これを私は、その若い友人へのなぐさめ言葉として書いたのではない。彼のいう『人生の曲り角』という言葉に、私自身、なにか強く触発されるものがあったからだ。

これがもし二十代の若者ならば、人生の曲り角といわず『人生の壁』に突き当たった、ということだろう。『壁』と『曲り角』とでは、ずいぶんちがう。

壁は行き止まりである。いや、行き詰まりである。しかもそれは単なる歩行停止ではない。壁とは視野をふさぐものだ。自分の視野がふさがれた、という意識が強度に㊦になれば、彼の眼の前におかれた白い壁はやがて黒い壁に変色するだろう。同時に、彼の意識もまた『お先まっ暗』という状況にズリ落ちて行くだろう。

十代の終りごろか、二十代のはじめごろに、この『人生の壁に突き当たった』という経験——それは経験というよりはむしろ意識といったほうが、より正しいのだろうか——を持たなかった若者はおそらく一人もないだろう。もし、いたとすれば、それは人間ではなく、一個のロボットだったにすぎない。

ところで私自身もまた若いころ、この『人生の壁』に幾度も突き当たったという記憶だけはたしかに持ちながら、その壁をどう乗りこえたか、あるいはどう突破したか、ということについては、いまだかに思い返すことができない。おそらく私は——これはすこしズルイ言い方だが——私自身のもつ若さという生命力のエネルギーによって、いわば本能的に、これら幾つかの壁を乗りこえ、あるいは突破したのであったろう。

やがて私は『人生の壁』とやらは、壁として実在するものではなく、それは私の意識の産んだ一個の㊩にすぎないのだ、と考えることができるようになった。これで私はすこしラクになった。つまり私は私自身の操縦術をおぼえた、というわけである。（むろん、いつもうまくあいに操縦した、というわけには参らないが……）

しかし、この『人生の壁』に代って『人生の曲り角』というやつが、いつのまにか私にもやってきた。

ところで、この『人生の曲り角』という熟語は外国語にもあるのだろうか。それともこれは外国語の翻訳なのだろうか。もしこれが日本語だけのものとすれば、われわれの先輩の造語能力はたいしたものだ、と敬意を表せざるをえない。

いや、たとえこれが翻訳語であってもかまわない。『人生の曲り角』とは実に㊪のある言葉だと思う。

ひとはだれでも、道を歩いていて、眼の前に曲り角が近づけば、そこですこし歩行をゆるめるだろう。用心深い人間ならば、そこで一旦歩行を停止するだろう。

しかしそれは一旦の停止であって、行き止まりでも、行き詰まりでもない。その角を曲れば、新しい道がひらけている、ということがすでに予想されているからだ。つまり、彼の視野はそこで一旦中絶されるにしても、それがまったくふさがれたわけではない。彼の意識の眼は、未知のものに向ってあらかじめひらかれている。

しかし曲り角は㊫曲り角だ。彼はいままで歩いてきたようには歩けないだろう。まず歩度を変えなければならぬだろう。それから足の角度を変えなければならぬだろう。

これが道の曲り角というなら、これぐらいですむが、こと『人生の曲り角』となれば、そう簡単にはいかない。人生の曲り角をまがるというのは、つまりは人生にたいする見方を変えということだろう。となれば、これはいへんめんどうなことだ。

私の若い友人のA君は、三十五歳という年齢を眼の前にして「またもや人生の曲り角にきた」という感じをうまく持ち、そのことで「いささか悩んでいる」という。

このA君とほぼ同じ世代に属するもう一人の若い友人のB君は、ついさきごろまである文芸雑誌の編集者としてながく勤めていたが、ある日突然、職を投げ㊬東京を去り、いまは岡山市にある陶芸師の養成学校に入っ

て、備前焼の修業をしている。

私はさきに「人生の曲り角をまがるといふのは、つまりは人生にたいする見方を変えるということだろう」と書いた。しかしこのB君は、人生にたいする見方を変えたばかりでなく、彼の生き方そのものを変えたのだ。

B君にとって、人生の曲り角とは単なる転機ではなく、文字通り転身だったのである。するとA君もまたB君とおなじように、転身ということで悩んでいるのだろうか。

このA君やB君より三十歳も年上の、六十五歳という年齢を目前にした私もまた「人生の曲り角にきた」という意識をつよく持ちつつある。しかし私はB君のように転身を考えているわけではない。（それを考えるには、もうおそすぎる）

私のいま考えている曲り角とは、これがおそらく私の人生にとって最後の曲り角になるだろう、ということ、この最後の曲り角をまがった一本道の先にあるのは「死」というものである、ということ、この二つのことである。

私はここ一年ほどのあいだに、古い友人をつづけて三人も亡くしている。彼らはいずれも私とほとんど同世代の人間ばかりである。彼らの死顔を見ながら、私は彼らの死を悲しみつつ、しかも同時に彼らの死をいかにも自然なものとして受け入れている自分に気がついていた。

しかし私のいう「自然なもの」とは、人間年を取ればだれでも自然に死がやってくる、という意味の自然ではない。私のいう「自然なもの」とは、いいかえれば「身近なもの」という意味である。つまり私は彼らの死顔をいかにも親しげな眼をもってながめた、というわけである。

こう言ったからとて、「死」にたいする心の準備がすでに私にできている、というのではむろんない。それどころか、有形無形いずれにしろ、私は死の準備らしいものをなんにもしていない。ただこの最後の曲り角をまがった先にあるものが「死」であることだけは確かだ、と知っているだけのことである。

（八木義徳『人生の曲り角』）

【18】 二重傍線部「曲り角」の前に置く①として正しいものを、①～⑤から選び、その番号をマークしなさい。

【解答欄は問 19】

- 19 ① ①しょせん ② なおも ③ そもそも ④ やはり ⑤ あくまで

【19】 二重傍線部「投げ」に続く②として正しいものを、①～⑤から選び、その番号をマークしなさい。

【解答欄は問 20】

- 20 ② ①うって ② かけて ③ すてて ④ おいて ⑤ だして

【20】 空欄⑦から⑨に該当する語を、それぞれ①～⑤から選び、その番号をマークしなさい。

【解答欄は問 21 ～ 23】

- | | | | | | | |
|----|---|---------------------------|--------------------------|--------------------------|-------------------------|---------------------------|
| 21 | ㊦ | ① 濃厚 | ② 濃淡 | ③ 濃艶 | ④ 濃密 | ⑤ 濃縮 |
| 22 | ㊩ | ① 映像 | ② 幻像 | ③ 虚像 | ④ 画像 | ⑤ 実像 |
| 23 | ㊫ | ① 含羞 <small>かんしゅう</small> | ② 蘊蓄 <small>うんちく</small> | ③ 含蓄 <small>かんちく</small> | ④ 備蓄 <small>びちく</small> | ⑤ 含笑 <small>かんしょう</small> |

【21】 筆者は波線部で、読者に何を伝えたかったのか。筆者の思いを五十字で述べなさい。

【解答欄は記述解答用紙問 24】

24 記述解答用紙へ